

今年買ったはいいが意味があったのか分からない機材まとめ

田中直樹

今年も事情により何だかんだと機材を揃えたは良いが、結局『ソレ今買う必要あった？』という自問自答が多かったような今日この頃。(長い目で見れば意味があるとは思うが)

そんなムダ金使いにならぬ事を切に願うアイテムをちょっと紹介。

■「ASIAIR Pro」

昨年、オートガイダー関係を更新したついでに入手した「ASIAIR (以後、旧 AIR)」だったのですが、そもそも最近天体撮影は専ら冷却 CCD だったので会報誌の記事にならない程度には出番なし。テストで一回使ったきりのような・・・。

そんな旧 AIR がなんぼも使わないうちに「ASIAIR Pro (以後、Pro)」にまさかのモデルチェンジしやがりましたよ。しかも旧 AIR のアップデート停止のアナウンスもセットで。正直 Pro を入手すべきかどうか悩んだのですが、旧 AIR からの乗り換えキャンペーンもあったし、Pro ではライブスタックなどの新機能やヒーターなどへの給電機能なんかもあったのでとりあえず入手はしておくことにしました。

中国がコロナ云々の時期だったので、少々遅れがあったものの何とか入手。

テストで使ってみると、なるほどプレートソルビングの手間が簡略化されていたり極軸調整機能があったりと旧 AIR と比べても中々使いやすくなっているようです。

まあ、このテスト以来使っていないんですけどね。最近デジ一眼ほとんど出番ないから。ASI の CMOS カメラでも入手すれば使用頻度が向上するでしょう。多分。

■「V 0.79×レデューサー」(VSD100F3.8 純正レデューサー)

今年の夏頃「VSD100F3.8」鏡筒が生産終了となったと話題になりました。

まあ色々と囁かれた鏡筒ではありましたが、天体撮影用望遠鏡としてもビクセンの望遠鏡としてもトップクラスの出来の鏡筒だったと思います。

・・・あの～、レデューサーまだ買ってないんだけど。

と言う訳で、レデューサーまで品切れになる前に駆け足でレデューサーを入手しました。

(※そんなすぐに品切れにもならないとは考えましたけども)

が、・・・正直今の撮影システムじゃ有っても無くてもそんな大差ないんだよなあ。

もう少しキチンとしたカメラに買い替えて以降にじっくり考えるつもりでいただけに、ちょっと想定外。(の出費)

まあスペックが $f = 300 \text{ mm}$ の F3 になったことで、(使ってる冷却 CCD では)画角が窮屈ではない程度には広がりました。F の明るさの恩恵は・・・正直よく分かんない(笑)。